

伊庭内湖周辺におけるホンモロコ親魚の漁獲状況調査

三枝 仁

1. 研究目的

伊庭内湖周辺では、春季に小糸網によりホンモロコが多数漁獲されている。これらホンモロコは伊庭内湖で産卵するために回遊する親魚である可能性がある。産卵前の親魚の過剰な漁獲は、翌年の加入に影響することが懸念される。そこで、伊庭内湖周辺で漁獲されているホンモロコの成熟状況等を調査した。

2. 研究方法

平成22年3月29日から31日にかけて大同川河口部(以下、河口)、大同川内部(以下、大同川)、伊庭内湖中央部(以下、中央)、伊庭内湖奥部(以下、奥部)で操業された小糸網漁獲物を収集し、体型測定、年齢査定、今シーズンの産卵の有無を調査した。

3. 研究結果

調査各地点で使用されていた小糸網は、目合い約2.4cmの1枚網の刺し網であった。調査期間中に収集したホンモロコは533個体で、うち5個体が1歳魚(2008年産)で残りは当歳魚(2009年産)であった(表1)。

各地点で漁獲されたホンモロコの性別を調べたところ、河口では雌の割合が高くなっており82.03%を占め、次いで大同川(75.00%)、中央(67.16%)、奥部(52.00%)の順になっていた(図1)。同時期に調査したにもかかわらず、雌雄の出現割合が異なっていたことから、産卵期に雌雄の行動が異なっていた可能性が示唆される。

また、これら雌について、卵巣の状態を観察し、卵黄が蓄積した卵を持つ産卵前の個体(以下、抱卵魚)と成熟した卵が無くゼリー状に充血したような卵巣の個体(以下、経産魚)の出現割合を調べた。なお、未熟な卵のみを抱えた未成熟の個体は出現しなかった。その結果、中央、奥部、大同川、河口の順に経産魚が多く、特に河口部では抱卵魚の割合が99%以上を占めていた(図2)。

以上の結果から、大同川河口など伊庭内湖周辺で漁獲されるホンモロコは、伊庭内湖へ産卵のために回遊しているものと考えられる。また、大同川河口付近における春季の漁獲は産卵前の親魚を漁獲していると考えられる。

表1. 小糸網漁獲物の雌雄と平均体長

年齢	性別	大同川河口		大同川		伊庭内湖中央		伊庭内湖奥部	
		個体数	体長(平均±SD)	個体数	体長(平均±SD)	個体数	体長(平均±SD)	個体数	体長(平均±SD)
1歳	雌	2	100.01 ± 2.02						
	雄	2	97.44 ± 1.06	1	100.32				
当歳	雌	176	90.74 ± 3.08	24	88.98 ± 3.34	90	89.21 ± 3.55	78	89.80 ± 3.56
	雄	37	88.09 ± 2.76	7	86.85 ± 1.55	44	85.39 ± 3.03	72	85.57 ± 3.07
合計		217	90.44 ± 3.37	32	88.87 ± 3.73	134	87.96 ± 3.83	150	87.77 ± 3.95

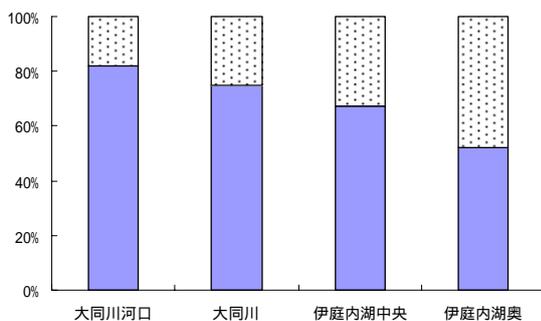


図1. 調査地点ごとの雌雄比

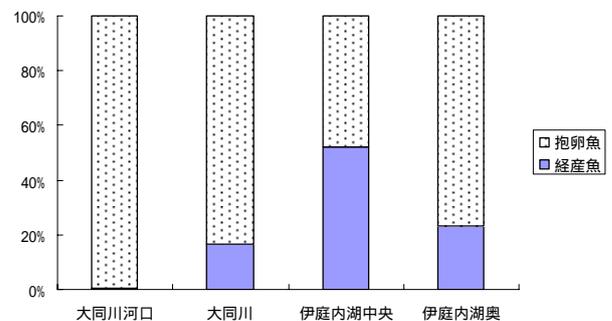


図2. 調査地点ごとの雌に占める産卵の有無